

(別記様式第15号)

令和2年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

富士見町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松枯損木伐倒処理
事業費		1,029,200円 (うち支援金: 1,012,000円)

事業目的

1) 地域の森林・林業の現状と課題

富士見町は八ヶ岳山麓、入笠山山麓に森林が広がり、アカマツ、カラマツを中心とした森林率約70%の森林・林業地帯である。

アカマツは森林資源のほか、生活環境の保全にも重要な役割を果たしているが、当町に隣県する山梨県は松くい虫被害の激甚地域である。長野県の入口となる富士見町において、松くい虫被害を拡大させないことが重要な課題となっている。

2) 本事業の目的

諏訪地域は県内唯一の未被害地であるため、松枯損木の伐倒処理を行い、マツノマダラカミキリの繁殖、定着を未然に防ぐことで、諏訪地域への被害拡大を食い止める必要がある。

事業内容

- 1) 実施場所 富士見町田端地区・下蔦木地区・上蔦木地区・広原地区・池袋地区
- 2) 対象者 森林所有者 一般住民
- 3) 実施方法 伐倒処理
- 4) 事業目標及び当年度事業量
 - ①全体計画(平成30年度～令和4年度) 富士見町田端地区・下蔦木地区・上蔦木地区ほか
*被害の発生量に応じて全量処理を予定している。
 - ②令和2年度実績 17本
*田端、下蔦木地区の松枯損木を町が所有者に代わり伐倒処理を実施。



施行前



施行後

事業効果

1) 事業実施の効果

松枯損木の処理を適時に行うことで、マツノマダラカミキリの繁殖、定着を未然に防止できる。これにより、松くい虫被害の拡大防止が図られる。

2) 継続性

松くい虫被害を未然に防止することにより、健全な松林が維持され、森林資源の保護に繋がると、本事業を継続して実施する必要がある。

3) 普及性

町が継続的に本事業を実施することにより、地域住民へ松くい虫被害防止事業が周知でき、枯損木の早期発見につながるなど、地域一体での取り組みが期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

1) 目標に対する成果の状況

松枯損木を早期に伐倒処理することで、松くい虫の媒介者であるマツノマダラカミキリが近隣の山梨県から飛来した場合に、繁殖防止に向けた環境づくりができた。

2) 課題

被害の激甚地帯である山梨県と当町は小さな河川を挟んで近接しており、被害が当町にいつ広がってもおかしくない状況であるため、適時に対応するなど未然の対策が不可欠である。

3) 今後の取り組み方向

■事業を現行どおり継続する。

監視活動を続け松枯損木を発見した場合には、早期に伐倒処理を行い、被害の未然防止に向けた対策を実施して行く。